

発行日
平成29年2月10日

Vol.65



発行所

関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 間 誌

もくじ



● 「新春を迎えて」玉川義光理事長	2
● 盛大に設立20周年祝賀会開催	3
● 組合の技術向上への取り組み	5
● 組合員・賛助会員懇談会を開催	6
● 受検対策実技講習を実施	7
● レッキスで講習会開催	9
● 3団体懇談会開催	10
● 4団体協議会開催	11
● 賛助会員訪問（岡崎産業株）	12
● わが社のイチ押し商品（シーケー金属株）	13
● 理事会 議事要旨	14
● 玉川理事長 職能協会会长賞	14
● 新入会員	14
● 日管連青年部会が広島で合同部会	15

新春を迎えて

技能伝承、人材育成で社会に貢献



理事長 玉川 義光

新年おめでとうございます。当組合は、平成4年6月、会員107社で「関西配管工事業協会」を創立、平成8年9月に任意団体の協会を協同組合へと発展させて「関西配管工事業協同組合」を設立、このほど協同組合設立20周年記念祝賀会を開催することができました。

振り返れば、20年前、当協同組合は大いなる使命と目標を抱いて設立されました。それは「技能の伝承で若者技能工育成」「高度な技能を売る集団組織の確立へ」を合言葉に教育活動に精力的に取り組んできましたことでした。中でも大阪府認定「1級配管技能士認定訓練講座」(学科試験免除コース)を実施し、18年間で育てた1級配管技能士は500名以上を数えます。さらに、1級配管技能士が受験資格である、国土交通省の「登録配管基幹技能者」登録講習へは開催地区開催では毎回、組合から講師を派遣し、登録配管基幹技能者の全国3000名超えに少なからず貢献できたと思っています。

また、当組合は特別加入労災保険並びに労働保険事務組合として事業を実施しており、「一人親方」保険加入者と事業主保険加入者が1000名以上を数え、働く技能工と事業主が業界の発展に大きな牽引力として活躍されています。

一方、社会保険未加入対策など業界は様々な課題を抱えています。今年3月末までに現場で働く技能工全員が社会保険に加入することが要請され、未加入者は現場に入れないことになっています。このことへの対応策は建設業界全体の大きな課題となっています。今、建設業界では団塊の世代の一斉退職で、優秀な人材確保や技能の伝承ができず、人手不足や技能工不足が深刻となり、建設業、特に設備業界の将来が危惧されています。国土交通省と厚生労働省は連携して対策に乗り出し、「適正な

価格での受注」「適切な賃金水準の確保」「技能工の適正な労働条件での処遇改善」などを訴えています。

さて、20周年を迎えた当協同組合の30周年に向けての活動を考えてみました。まず、若者技能工育成のために高校生インターンシップ、技能五輪をめざす若者への指導協力、高等職業技術専門校へのインターンシップ、配管マイスターの派遣、技能コンテスト開催へ協力——などが思い浮かびます。人材の確保・育成については、外国人実習生受け入れを積極的に推進することが重要だと思っています。外国人実習生を単純な労働力でなく、優秀な技能を有する戦力として教育することが大事だと考えています。また、女性技能者の採用推進も重要な課題となっています。女性が働きたくなるような職場環境と時間対策を研究していきたいと思います。

さらに、当組合の青年部会への活動支援も欠かせません。青年部会が取り組んでいる「助け合いネット」を拡充し、助け合いの仕組みを通じて仕事の拡大の機会を作り、業界の環境改善に貢献してほしいと願っています。

このほか、引き続いて3団体懇談会、4団体協議会、竹中工務店意見交換会など各種の会合を通じて意見・情報交換を密にし、共通の課題克服に取り組みたいと思っています。現場で汗する技能工が「名誉と誇りを持ってこの業界に一生を託すことができる」ように当組合は技能を売る集団として社会に貢献していきたいと考えます。実現可能な範囲の希望を叶えるため、最大の努力を惜しまない所存であります。どうか皆様のご協力をお願い申し上げます。

この1年が業界で働く技能工やその家族すべての人々が平和で安心して生活ができるようになる年であることを祈願いたします。

盛大に設立20周年祝賀会開催

20年の蓄積を基盤に再前進

協同組合設立20周年記念祝賀会を1月27日に大阪市都島区の太閤園で多数の来賓を招き盛大に開催しました。

祝賀会には上部団体・日本配管工事業団体連合会（日管連）傘下の北海道から九州までの各地区団体の代表者をはじめ、地元政界、関連団体、ゼネコン、サブコンなどの来賓と組合員・賛助会員を合わせ約140名が参集しました。挨拶に立った玉川義光理事長はお札を述べるとともに、次の節目の30周年に向け、「現場で汗する技能工が名誉と誇りを持ってこの業界に一生を託すことができるよう『技能を売る集団』として社会に貢献していきます」と改めて決意を示しました。

組合は平成4年結成の任意団体・関西配管工事業協会を母体に



同8年9月、現団体名で設立し、昨年20周年の節目を迎えたことから本年の新年賀詞交歓会を兼ねて



円内は挨拶する玉川理事長

記念祝賀会を開催しました。

祝賀会は、山田誠香副理事長が「皆様のおかげをもちまして設立20周年を迎えることができました。また、はるばる遠方からもご参集たまわり厚くお礼申し上げます」と開会の辞を述べて始まりました。次いで、玉川理事長が組合の沿革などを紹介するとともに、「振り返れば20年前、当協同組合は大いなる使命と目標を抱いて設立されました。それは、『技能の伝承で若者技能工育成』『高度な技能を売る集団組織の確立へ』を合言葉に教育活動に精力的に取り組んできたことであります。その成果は500人を越える1級配管技能士を生み出したことにも表れています」と述べました。

さらに、玉川理事長は「いま当業界を含む建設業全体の大きな様々な課題に直面しています。社会保険未加入者対策であり、深刻な人手不足や技能工不足への対応

などあります。また、登録配管基幹技能者の長期目標6000名達成も重要であり、こうした多くの課題に向けて関係官庁、関係業界と一緒にになって取り組みを強化していきます。当業界で働く技能工やその家族すべての人々が平和で安心して生活ができるようになることを祈願します」と力強く抱負を述べました。

来賓からは、地元選出の中山泰秀衆議院議員が国会開催中のため秘書・中田成哉氏を通じて祝辞を寄せました。また、花谷充愉悦大阪府議会副議長が「苦難を乗り越えてきたことに敬意を表します」と述べるとともに、「大阪で万国博覧会をやろうという気運が高まっています。大阪が元気になれば関西も元気になるので皆さんと一緒にになって頑張っていきたい。この20周年を機に次の節目に向けて飛躍してほしい」と激励を込めて祝辞を述べました。



来賓祝辞を述べる（左から）中山衆議院議員代理の秘書・中田氏、花谷大阪府議会副議長、西野大阪府議会議員、西尾日管連副会長

西野しげる大阪府議会議員も「全国から同志がこんなに集まっている協同組合の姿をみて心強く思います。総合リゾート場の開発など大阪ファーストで進んでいくので期待してほしい」と祝辞を述べました。

ことで若年者が安心して入職し仕事ができる環境づくりに努めてほしい」と期待を寄せました。

大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が「カンカンカンパイ」と乾杯の音頭をとって祝杯を上げ、20周年の節目を祝いま

した。

最後に、庄司真之副理事長が「全国から仲間のみなさんに駆けつけていただき、記憶に残る式典・祝賀会となりました。技能の伝承、技能の向上、若手の育成に努め、業界の発展に寄与し



乾杯の音頭をとる城口・大阪空気調和衛生工業協会副会長



乾杯で20周年の節目を祝う

日管連からは西尾雄二副会長（関東配管工事業協同組合理事長）がお祝いの言葉を述べ、當木仁・日管連会長のメッセージを伝えました。當木会長はこの中で「大阪府における登録配管基幹技能者の人数が北海道に続き全国で2番目に多いことをみるだけでも技能教育に格段の力を注いできただことがうかがえます。ここ数年、配管技能工の賃金に若干の回復がみられるものの、それに安心することなく技能者の教育・訓練に取り組まれ、業界の魅力を発信する

した。祝賀会では賑やかな交流が繰り広げられ、宴半ばには、4人編成バンド「メロンジエ」演奏のアトラクションも行われ、会場は祝賀ムードが一段と盛り上がりま

ていきます」と述べ、同氏の音頭で威勢よく「大阪締め」が行われ、配管工事業界の発展を誓いました。



「メロンジエ」のバンド演奏



閉会の辞を述べる庄司副理事長



威勢よく「大阪締め」を行い業界の発展を誓い合う

技能向上への取り組み

関西配管工事業協同組合は、「関西配管工事業協会」（平成4年結成）を発展的に解消し、平成8年9月、中小企業等協同組合法に基づく「関西配管工事業協同組合」として設立しました。

組合は「高度な技能を売る集団」を合言葉に任意団体当時から技術・技能の向上をめざした教育事業に注力し、協同組合設立後は一段と教育体制を拡充しました。その核となるのは、大阪府認定の1級配管技能士講習会（平成11年～、会場・ポリテクセンター兵庫）です。毎年4月から9月までの日曜日を使用して延べ120時間に及ぶハードな講習を行っています。この講習に毎年末の技術研修会（平成12年～）、同じく毎年末の受検対策実技講習（平成14年～、2日間）を併せ、積極的に技術・技能育成に取り組んできました。1級配管技能士講習会などで昨年までの18年間に育てた1級配管技能士は500名を超えます。

また、この1級配管技能士が受験資格であり、上級職長の道を開く国土交通省の登録講習「登録配管基幹技能者」についても関西地区で開催する認定講習会（計5回）に参画し、組合から毎回数名の講師を派遣してきました。このほか、大阪空気調和衛生工業協会主催の配管技能コンテスト（計8回）にも開催協力するとともに、毎回、選手を出場させて「技（わざ）」を磨いてきました。

一方、組合員の事業に直接貢献する事業としては、平成9年9月に設立認可された「一人親方組合」（大阪労働基準局認可）として労災保険の特別加入に関する業務を行っています。さらに、平成20年4月には労働保険の事務組合（中小事業主）としての認可も受け、業務を拡充しました。

配管工事業界では、配管資材や工法の高度技術化・多様化、また市場環境がめまぐるしく変動するため、同業者間、関連業者間の情

報交換・意見交換による各種の情報把握が欠かせません。組合では、賛助会員（資機材メーカー・流通業者）を交えた「組合員・賛助会員合同懇談会」（計7回）、さらには、ダクト工事業、保温保冷工事業との「関連3団体懇談会」（計40回）、これにサブコン団体を交えた「関連4団体協議会」（計23回）などの会合を定期的に開催し、共通の課題はもとより、立場が相反する問題などについてもそれぞれの視点、立場で意見・情報交換、協議し、解決の糸口を見出そうと会合を重ねています。最近では大手ゼネコンとの会合も開いています。

また、組合には青年部会が結成され（平成13年に再編成）、定期的な会合を開いて意見・情報交換を行っているほか、各種施設見学会も実施するなど活発な活動を続けています。青年部会は平成27年、人材不足・仕事不足の解消をめざして「助け合いネット」の本格運用を開始し、日管連を通じて全国展開をめざしています。

組合員・賛助会員懇談会を開催

市場動向で情報交換

第7回「組合員・賛助会員合同懇談会」を12月1日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、市場動向などについて情報交換しました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて30名が出席、庄司真之副理事長の司会で進められ、最初に玉川義光理事長が「組合員・賛助会員は立場こそ違え、線路の2つのレールに乗っており、これからも同じ目標に向って走っていきたい。賛助会員の皆さんの協力があってわれわれ組合員もスムーズに仕事がこなせる」と賛助会員に協力を要望しました。



情報交換の中では、配管工事業の最近の市場動向として「衛生設備工事が比較的活況で職人の絶対数が不足している。付加価値をつけて発注者から選ばれる側に立ちたい」、「大手ゼネコンは『今は仕事が停滞気味だが、2017年から忙しくなる』といつており、見通しは明るいようだ」、「配管工のレベルを上げて社会的地位を上げたい。それには今、組合が力を注いでいる技術・技能教育しかない。そういう仲間意識を組合員、賛助会員で共有したい」という意見が



出されました。

賛助会員からは「ライニング鋼管の需要が減っているが、ステンレス管の需要はますます推移している」、「関西圏では今年度上半期は厳しい業況となった。しかし、これから現場も動いてくると思うので新製品を組合員の皆様に



PRしていきたい」、「関東圏を中心いてプレパブ配管が普及しているのに関西ではまだまだである」といった情報が出されました。

また、メーカー賛助会員からは「こういう会を通じて新しい商品などを作ってきてている。施工業者にメリットがあり、現場での作業効率につながる商品を開発し、こういう場で広めて共存していく」、「日頃から施工業者の意見をいただいて製品開発に生かしている」という声が出されました。

また、流通賛助会員からは「現場で時間を指定されても急に

変更になると対応が難しいケースがあり、理解いただきたい」という要望が出され、組合員から「デリバリーの問題はわれわれも協力していかないといけない。流通の事情を理解していきたい」と応じる声が上がりました。

また、最近、青年部会が活発に活動していることに関連しての意見交換も行われ、メーカーの新商品説明会、工場見学などさまざまな取り組みを行っていることが報告され、部会員からは「業界として底上げできることはどんどんやっていきたい」、「ゼネコンからもわれわれの話を聞きたいといつてきている」、「業界全体で何ができるかを模索している」という意見が出されました。

一方、「ここ数年、サブコン業界ではCADなどで簡単に仕事が進められる環境とともに、余裕もないようで技術者の教育が十分できているのか疑問を感じる」、「サブコンの現場で所長が現場の施工のことにあまりタッチしていないのが技術者のレベルが落ちている理由」などの意見も出ました。

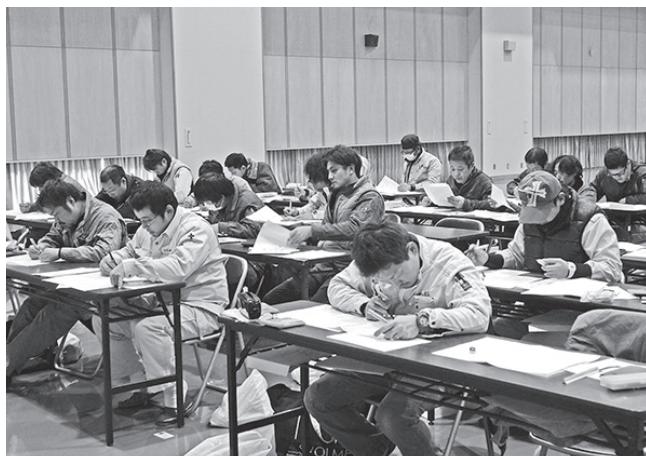
技能士受検対策実技講習

1級技能士めざし2日間みっちり実地研修

平成28年度の1級配管技能士検定（29年1月）へ向け、組合では12月17日（土）と18日（日）の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習は先にレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。今回は前回（20名）より多い31名が1級配管技能士の受検予定者が鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番ながらの講習に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師による「材料取り・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。



材料取りのペーパーテスト



午後の実技講習では、まず玉川義光理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、パイプを真っ直ぐ切断するため、その要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。

このあと、宮本泰仁指導員と池成信夫指導員が手動ねじ切りと溶接の模範実技を行い、それぞれの作業の要点などを実技で指導しました。

引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、配管実技の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料



実技の前に作業要項の説明



ねじ切りの模範実技

取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、との受講者は前日の反省を交えて実技講習に臨みました。

午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の製作に懸命に取り組んで



銅管溶接の模範実技

完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



指導員から細かいアドバイスを受けて課題作品の製作に取り組む



レッキスで講習会開催 手動ねじ切りと製品知識習得



組合は12月10日(土)に大阪府東大阪市のレッキス工業本社工場で講習会を実施し、受講者は1級配管技能士検定に向けた手動ねじ切りの実習、積水化学工業製品の技術知識習得、正しいねじ加工などを学びました。

講習会には40名が出席し、ここ3年(26年31名・27年16名)では最も多い受講者となりました。講習は、今年度の技能士検定に備えて12月開催の組合主催・受検事前講習(南大阪高等職業技術専門校)の予習を兼ねて行われ、手動ねじ切りの実習、積水化学工業の高性能ポリエチレン管(PE管)の商品研修、レッキス工業による正しいねじ加工の座学・実演が行われました。

この講習会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより



手動ねじ切りの実地講習(女性も参加=右写真)



レッキスミュージアム見学



積水化学工業による実地講習



レッキス工業による実演

実施されており、今回で17回を数えます。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤し研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光理事長はレッキス側に感謝の言葉を述べるとともに、「われわれ配管工事業にとって、折れにくい、漏れにくい、錆びにくいという配管材とこれに対応した配管機器はきわめてありがたいものであり、これに応えられている積水化学工業とレッキス工業には大きく期待している。PE管とその配管工法など新時代の技術を学んでほしい」と激励を込めて挨拶しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レ

ッキス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、積水化学工業・近畿設備システム営業所の小島傳係長により同社の高性能PE管「エスロハイパーAW」の商品説明が行われ、続いて、EF(電気融着)機を用いての施工講習があって、受講者に講習済み証書の発行手続が行われました。

また、レッキス工業からは大西規夫氏による「正しいねじ接合と転造ねじ」の説明があり、ねじ加工機の実演も行われました。

第40回「3団体懇談会」開く

「若者入職者」対策を模索

当組合と近畿ダクト工事業協同組合（ダクト工事団体）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事団体）で構成する「3団体懇談会」は11月29日、大阪市北区鶴野町のグラン・アモーレTAMAHIM Eで第40回会合を開き、「若者の入職者・定着率向上対策」を議題に現状報告を行うとともに、今後の取り組みを模索しました。



若者の採用・定着に関して配管業界からは「3Kとして敬遠され、新規高卒者の採用はきわめて難しい」、「普通高校から入社した者は定着率が悪いが、工業系の高校生はある程度定着している」、「偏差値の高い高校からの採用は案外定着する」などの実情が報告されました。

保温保冷とダクト業界からも「マイナビで募集したら数人、面接にきたが採用には至らなかつた」、「下請関係の縁故採用がすべて」など厳しい人材確保の現状が示されました。また、「高校やハローワークに募集を出している。現場見学に連れて行くと、もう後

日の面接には来ない」という声がある一方で、「完成現場見学に連れて行くと感激する人もいて、この効果を利用するのも一策ではないか」という反対のケースも示されました。

また、「配管に比較してダクト工事と保冷保温工事はやや楽な業



当組合出席者

ることが報告されたほか、配管業界でもベトナム実習生を受け入れて戦力化を図っているケースが紹介されました。この中では「ベトナムの若者は仕事に対して真摯な態度で臨んでいる。ただ、多数の人材受け入れには様々な制度の制約、資金的な問題もあって難しい」という実情が報告されました。

さらに、女性技能者については、配管業界の例として若い女性を採用し、ゼネコンに女性の活用を訴えて『女性活躍の職場』を設定してもらうなど取り組んでいる例が報告されました。こうした女性技能者の活用については各業界から「現場では徐々に女性用トイレが増えてきた。施工業界もゼネコン、サブコンに向けてアドバルーンをあげて将来に結びつけることが重要だ」などとする意見で一致しました。

今後、3職種それぞれが高校などの教育機関や若者が集まる催し場などで意義ある職種であることをアピールすることが欠かせないという意見が大勢を占めました。これについては、小冊子や情報ツールなどを活用して業界の認知度を高めていく方法を模索していくこととしました。

種にみられていることも感じる」といった見方や、ソフトボール大会など催しもので人を集め、その家族的な付き合いから人材を確保している例も紹介されました。

仕事量と人材については各業界とも「将来の仕事量が掴めないので多くの人材を確保するのはためらわれる」などの意見が大勢を占め、業況の先行きが不透明な現状では人材をどの程度確保していくのか、そのさじ加減に苦慮している姿が浮き彫りになりました。

女性技能者、外国人技能者の入職についても意見が交わされ、保温保冷業界では全国的に見て多くのベトナム人実習生を活用してい

4団体協議会を開催

「社保問題」「人材確保」で意見・情報交換

当組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体）で構成する4団体協議会の第22回会合が昨年7月25日に、第23回会合が11月21日に大空衛事務局のある新トヤマビル会議室で開かれ、主要議題として建設業界の「社会保険未加入問題」、「現場の諸課題」、「人材・女性技能者の確保・育成」などで意見・情報を交換しました。

22回会合には11名が出席。保険未加入問題については、『建設国保』に関連して、「社会保険未加入対策として元請や上位企業から建設国保から協会けんぽに移行させよう

のためには下請がつぶれないような方策を打ち出してもらいたい」などの意見が出されました。

若手後継者の育成については、「ダクト業界の取り組みとしてマンガ『おしえて ダクト君』の冊子を作成し、ダクトの役割が視覚的に分かるように就職指導の先生、就活の高校生、小中学生を対象に出前講座を行っている」といった報告のほか、「サブコンの業務を分かりやすく説明するのは難しい」、「高校2年生を対象にインターンシップを実施している」、「設備を含めた建設業全体を魅力ある職場としてどのようにアピールしていくかが大きな問題」など

入場を認めないとの取り扱いをすべきである』との強硬な姿勢がうかがえたが、改訂版では、特段の理由を付与するなどかなり緩和されてきた印象がある」という見方が示されました。

これに関連して、「改訂版の中で『元請企業は特段の理由がない限り現場入場を認めないとの取り扱いをすべきである』とあるが、工事の円滑な施工に支障が生じる懸念がある場合は、特段の理由は適用されないのか」、「工事の円滑な施工に支障が生じる懸念がある場合は、そもそも下請指導ガイドラインの対象外として解釈してもいいのでは」などの意見が出されました。

女性技能者の育成、活用については、「配管工として21歳の女性を採用した。勤務時間を朝9時から午後4時に限定し、女性活用



とする動きがあるが、国土交通省通知（「建設業に係る協会けんぽへの加入と国民健康保険組合への加入」）では、協会けんぽに加入しなくても建設国保と厚生年金のセットで社会保険に加入することは適法とされているということを聞いた」などが報告されました。また、「国交省は、平成29年度で未加入をなくすといっているが、そ



の意見が出されました。

23回会合には11名が出席。保険未加入問題について事務局から国土交通省の『社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン』の改訂版（H28.7.28付概要）について説明が行われたあと、意見・情報を交換し、「以前の国交省の説明会では保険に加入していることが確認できなければ元請企業は現場

に理解がある大手ゼネコンの現場に入ってもらっている。しかし、他の現場では就労時間がネックである」という意見が出されました。女性技能者を雇用するためには①就労時間の配慮②託児所（子育て環境の確保）③正社員（雇用の安定）——が不可欠であるとの意見が大勢を占めました

第23回会合

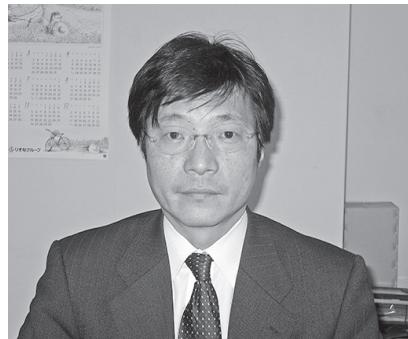
信頼されるパートナーめざす

「われわれの業界にもグローバル化の波は押し寄せ、諸材料の高騰など受注環境は厳しさを増しているが、こういう時こそ、柔軟な発想と対応力で乗り切っていきたい」と話す岡崎信一社長。

「当社は、昭和30年に父（現会長）が創業した時から配管資材・設備機器に特化し、お客様の立場に立ってどんな小さな要望にも応えるべく駆け回ってきた。その小さな積み重ねが現在の礎となり、かけがえのない大きな財産となっています」

同社は、現会長で岡崎信一社長の父・照雄氏が昭和30年、大阪市西区新町に「岡崎商店」を個人創業。昭和44年に現社名に法人改組。幾多の困難を克服し配管資材・設備機器総合商社として確固たる基盤を確立しました。

創業から半世紀余り過ぎた平成20年には、本社ビル西側に新館を増築し、既存棟も新館東ビルとしてフルリニューアル。それに合わせ



岡崎社長

せて現社長が新たにバトンを受け継ぎ、さらなる成長を遂げています。

「現在のような風向きを掴みにくい変化が激しい時こそ、これまで取り組んできた姿勢が結果に現れてきます。今一度基本に立ち返り、当社が掲げる提案型セールスエンジニアリングを実践し、幅広い商品群をワンストップで受注、納品できる体制を構築し、お客様のお役に立ち、信頼されるパートナーをめざしていきます。われわれが扱う配管資材は、液体・気体・粉粒体などの制御を合理的に行う私たちの生活や産業の基盤を

支える大切なことを心に社会に貢献できる企業でありたい」と話します。

＜企業プロフィール＞

○所在地：大阪市西区南堀江

4-23-34

Tel.06-6538-2287

Fax.06-6541-7910

○資本金：9900万円 ○創業：昭

和30年10月 ○設立：昭和44年7

月 ○役員：代表取締役社長 岡崎信一、取締役会長 岡崎照雄、常務取締役 舟木直夫、取締役総務部長 岡崎次郎、取締役営業部長 村嶋祥友

○事業内容（取扱商品）：各種管材、鉄鋼材、バルブ類、継手類、衛生陶器、金具、ユニットバス、システムキッチン、給湯器、各種水栓、計量器、空調用機器、防災消防用機器、各種タンク、ポンプ、住宅用機器、換気扇、保温材、ガスケット類、配管用機材工具、現場用具等の配管機材卸売

○H P : <http://okazaki-co.jp/>

地域に密着し 社会に貢献する



配管資材設備機器／総合商社

岡崎産業株式会社

本社 〒550-0015 大阪市西区南堀江4丁目23番34号

URL:<http://www.okazaki-co.jp>

代表取締役社長 岡崎信一

☎ (06) 6538-2281 (営業1課)
☎ (06) 6538-2284 (特販課)

☎ (06) 6538-2282 (営業2課)
☎ (06) 6538-2286 (営業6課)

☎ (06) 6538-2283 (営業3課)
☎ (06) 6538-2287 (経理課)

わが社のイチ押し商品

プレシール継手（シール剤付き管継手）

配管機器メーカーのシーケー金属（本社・富山県高岡市守護町2-12-1、釣谷宏行社長）は、ねじ部にシール剤を塗布した継手を開発し、発売しています。

シール剤付き管継手は、めねじ部に特殊な方法でフッ素系樹脂を塗布したもので、主に消防配管などのプレハブ加工を行っているお客様で使用されています。

同社では、平成16年10月に発売した世界初『カドミ無&鉛無 e白継手』の大口ユーザーである工作機械メーカーや納入商社などからシール剤付き白継手開発の要望が寄せられていました。

また、近年、公共物件や全国の小・中学校の耐震化工事などで、ライフラインである配管の耐震強度を向上させるため、転造ねじを採用するケースが増えています。

プレシール継手に塗布されているフッ素系樹脂は、潤滑性が良いため、転造ねじとの相性も良く、今後、転造ねじ対応の継手としても需要拡大が見込めます。

<プレシール継手の特長>

◇転造ねじ対応！

転造ねじは従来の切削ねじと比べ、ねじ込み作業時の締め込みト



CKプレシールSUS継手



CKプレシールコア継手

ルクが大きく、通常の液状シール剤の塗布状態によっては、継手のねじが、かじりつく恐れがあるため、潤滑性の良いフッ素系樹脂シール剤が適している。

◇作業性向上！

従来の切削ねじにおいても、フッ素系樹脂シール剤は潤滑効果により、ねじ込み作業時の締め付けトルクが軽減される。

◇信頼性向上！

耐食性、耐候性、耐薬品性、衛生性、密着性など、優れた性質を持つフッ素系樹脂シール剤を工場で適度な厚さで均一に塗布しているので、シール性が向上する。

◇防食性向上！

継手のめねじ部にフッ素系樹脂が塗布されているので、保管時にねじ部の腐食などがなく、長期的

に安定した品質を保てる。

~~~~~  
さらに、同社では新製品CKパイプシェーバー「けづるんです」を今春に発売予定です。

溶接時の前作業である亜鉛除去・開先加工を完全自動化ができる商品です。

主な特長は①溶接前に不要な亜鉛を自動で除去することで溶接が安定し溶接不良が抑えられる。②パイプも継手も簡単に亜鉛除去が可能。③内面と外側の同時除去が可能。内面のみの除去も選択可能。④オプションを追加すれば長尺、定尺パイプの加工可能。⑤軽量、コンパクト。現場へ持ち運び可能。⑥開先角度が安定。⑦1台で幅広いサイズに対応——など。

## CKパイプシェーバー

新春発売!

～けづるんです～  
溶接時の亜鉛除去・開先加工を  
完全自動化!!



## ☆パイプシェーバーの特徴

1. 溶接の時に邪魔な亜鉛を自動で除去する事で溶接が安定し溶接不良が抑えられる。
2. パイプも継手も簡単に亜鉛除去が可能。（世界初）
3. 内面と外側の同時除去が可能。内面のみの除去も選択可能。
4. オプションを追加すれば長尺、定尺パイプの加工可能。
5. 軽量、コンパクト。現場へ持ち運び可能。
6. 開先角度が安定。
7. 1台で幅広いサイズに対応。

# 理事会 議事要旨

## 【28年9月】

- ①大空衛主催の第22回4団体協議会出席報告
- ②大空衛主催の第8回配管技能コンテスト開催結果報告  
当組合から「一般の部」に5名を推薦出場
- ③一般社団法人大阪府建団連主催の「第3回建築・土木技能体験フェア2016」実施報告
- ④平成28年度「登録配管基幹技能者講習」の開催案内書について
- ⑤国土交通省近畿地方整備局主催の「第5回社会保険未加入対策推進近畿地方協議会」出席報告
- ⑥日管連平成28年度第11回定期総会・安全大会・理事会・懇親会・二次会・親睦ゴルフコンペ・観光コース開催終了報告
- ⑦新規賛助会員の組合加入申し込み諾否について
- ⑧技術研修会開催日程と要領作成について
- ⑨組合発行機関誌「KANAKANくらぶ」の配付先と広告掲載依頼先の見直しについて
- ⑩その他◇竹中工務店との打ち合わせ会開催について

## 【28年10月】

- ①平成28年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②日管連・平成28年度第7回全国青年部会開催に伴う関西配管組合青年部会からの参加者報告

③平成28年度1級配管技能検定受検対策実技講習開催要領作成について

④第7回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成について

⑤組合設立20周年記念祝賀会開催に伴う案内文と記念誌発行並びに記念品配付の検討

⑥その他◇ベトナム人技能実習生受け入れ状況報告◇国土交通省の「社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン」の改訂等について

## 【28年11月】

①平成28年度第1回近畿地区会場「登録配管基幹技能者講習」終了報告

②第40回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討

③平成29年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について

④組合設立20周年記念祝賀会開催に伴う祝賀会次第・案内状文案・記念誌発行概要の検討と記念品・アトラクションの再協議

⑤その他◇池成信夫理事「ものづくりマイスター」シンポジウム参加報告◇大阪府立北大阪高等職業技術専門校よりの職業訓練指導員の短期派遣研修（建築現場での現場研修）について

## 【28年12月】

- ①日管連理事会出席報告

②第7回組合員・賛助会員合同懇談会運営順序の打ち合わせ

③組合設立20周年記念祝賀会開催に伴う記念品・アトラクションの選定について

④その他◇玉川義光理事長平成28年度中央職業能力開発協会会长表彰受賞報告◇第18回管工機材・設備総合展OSAKA2017開催に伴う後援名義の使用承認について◇大阪府委託事業の向上支援事業相談申込利用に伴う現況について

## 【29年1月】(1回目)

①大空衛主催の第23回4団体協議会出席報告

②第40回3団体懇談会出席報告

③第17回技術研修会終了報告

④平成28年度1級配管技能検定受検対策実技講習終了報告

⑤第41回3団体懇談会開催に伴う当番幹事団体として当組合からの提案事項の検討について

⑥大阪管工機材商業協同組合主催の第18回管工機材・設備総合展OSAKA2017に当組合として出展を見合わせることについて

⑦組合設立20周年記念祝賀会開催に伴う出・欠回答者の報告と当日の準備事項点検について

⑧その他◇平成29年2月定期理事会の休会について

## 【29年1月】(2回目)

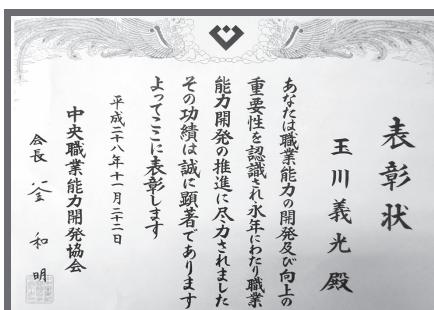
①組合設立20周年記念祝賀会開催に伴う諸準備事項の最終確認

## 玉川理事長

当組合の玉川義光理事長は、中央職業能力開発協会から職業能力開発の推進に尽力した功績により、同協会会長表彰を受けました。

大阪府職業能力開発協会の推薦により受賞したもので、表彰式は11月22日に東京都港区の明治記念館で行われました。

## 職能開発協会会长賞



## 新入会員

### 【賛助会員】

丸井産業(株)大阪北営業所

代表者 田保 浩氏

〒572-0847

大阪府寝屋川市高宮新町8-7

Tel.072-820-0101

Fax.072-824-0101

## 日管連全国青年部会

# 広島で第7回部会開催

日本配管工事業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連・全国青年部会（部会長朝倉博昭氏＝関西団体）の第7回部会が10月21日に広島で開催されました。

今回は中国配管工事業協同組合青年部会（藪下保之部会長）の担当で開催されたもので、意見交換会を開き、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化の方策を模索しました。

▽ ▽

21日の夕刻、各地から広島市にあるエンジェルパルテに集合した会員は、北海道、東北、関東、中部、中国、関西、九州の7団体からオブザーバーなども含め約60名。午後2時過ぎに発生した鳥取地震の影響で交通機関に遅延が生じましたが、全員が無事に合流し、1年振りの再会を喜び合いました。

臨時役員会のあと、意見交換会が開催され、藪下・中国青年部会長の挨拶に続き、朝倉・全国青年部会長が日頃の組合活動に謝辞を述べたあと「2020年には東京オリンピックが開催される。今後の人手不足に対応するために日管連青年部会の皆様が交流を深め、ぜひ会社経営のヒントやメリットを掴んでもらえるような意義のある会合にしたい」と期待を込めて挨拶しました。

このあと、各地区の近況報告及び活動状況が発表され、活発な意



見交換が繰り広げられました。

▽ ▽

各支部からの近況報告では、関西団体の齊藤竜久副部会長が昨年の部会に引き続き〈日管連・助け合いネット〉の近況報告を行いました。同ネットは、職人不足・仕事不足の情報を共有する場がなく、機会損失が発生している現状の打開策として、全国の会員が運営サイトを通じ、「応援を依頼したい会社」と「仕事を求める会社」の情報を共有し、ビジネスチャンスにつなげていく試みです。

齊藤氏の報告では、今後に向けて新しい可能性として、関東でも取り組まれているBCP（事業継続計画）やレベルランク制度などと、助け合いネットに関連性を持たせることによって、全国の取り組みをWebに集約し、情報を共有しあい業界環境改善に貢献するというものです。



懇親会で全国の仲間と交流

「助け合いネット」について  
賛助会員として開発に取り組んでいる(株)エピットの入佐裕之氏から詳しい説明のあと、さらに拡がる可能性として現在進行中であるBCP対策を含め、市場単価・物件、繁忙期情報など全国の同業者とともに解決するために構築された、いつでもどこでもネット上で閲覧できる共有システム「Gembastation」の紹介をホーセック(株)の毛利正幸氏が資料を交えながら解説しました。

齊藤氏は、課題や問題をクリアしながら実践的で実用になる仕組みに変えていきたいと意欲を示しており、今後は意見をまとめて日管連の理事会でもこの仕組みを提案し、正式に承認を受けられたら各地域で抱えている問題などを反映させながら、業界環境改善の一助になるよう推進していく予定です。

部会では、このほか、会員増員・組織基盤の拡充などさまざまな課題に対し、全国青年部会が協力し合いながら力を注いでいくことで意見が一致しました。意見交換会終了後、懇親会を催し、賑やかに交歓しながら親睦を深めました。

## 事業主の皆さん、 労働保険に入つて いますか？

労働者を1人でも雇っている事業主は労働保険に加入する義務があります。労働保険とは「労災保険」と「雇用保険」を総称したも

ので、労働者を1人でも雇用されている事業主の方は、労働保険に必ず加入しなければなりません。

お問い合わせ先

◇労災保険制度については

労働基準監督署へ

◇雇用保険制度については

ハローワーク（公共職業安定所）へ

【労働保険事務委託団体・労働保険事務組合】

関西配管工事業協同組合

【労災保険・特別加入団体】

関西配管工事業協同組合・一人親方組合

## 消費税の転嫁でお困りの方

- 取引先から消費税が支払われない…
- 税率アップ後も税込単価が変わらない…

中小企業庁や最寄の経済産業局にご相談ください！  
転嫁Gメンがあなたの相談に応じます。

### 消費税の転嫁でお困りの方

- 取引先から消費税が支払われない…
- 税率アップ後も税込単価が変わらない…
- 免税事業者を理由に消費税が支払われない
- 支払いの際に、消費税分を差し引かれた

転嫁Gメンがあなたの相談に応じます！

秘密は絶対に守ります。  
ご相談ください！

WEBでも情報の申告ができます！

アクセスはこちらから

<http://www.shinkoku.go.jp/shinkoku/>

または 申告情報受付窓口 検索

〒540-8583

大阪市中央区大手前一丁目5番44号

経済産業省 近畿経済産業局

消費税転嫁対策室 06-6966-6038

安心

活気

やる気

## 働くみんなに 退職金効果！

中退共は、国がサポートする中小企業のための退職金制度です。

安全

国の制度だから安心

掛金の一部を  
国が助成します。

有利

掛金は全額非課税

手数料もかかりません。

簡単

社外積立だから  
管理もラクラク

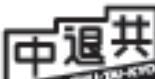
転職先でも引き継げる  
「通算制度」があります。

詳しくはホームページを  
ご覧ください

中退共

検索

<http://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>



独立行政法人勤労者退職金共済機構  
中小企業退職金共済事業本部

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1  
TEL(03)6907-1234 FAX(03)5955-8211